

発刊によせて

備陽史探訪の会々長 神谷和孝

此度、備陽史探訪の会の会誌「山城志」第8号を発刊し、皆様に読んでいただけることになりました。

平素より当会の活動の内容や、活動の主旨については、あたたかい御理解をいただき、会の活動に力を添えていただいている事に対しまして、この紙面をかりて、厚くお礼申し上げます。本会の活動の中心になっている会員、とりわけ、20代後半から30代の前半の男子の会員が、好きで、よく使う言葉の中に「草莽」と言う言葉があります。「草莽」と言う言葉を辞書でひいてみますと「雑草」とか「在野」とか言う意味を持っています。辞書で「草莽」の意味を知って、私達の会自体が「草莽」と言うにふさわしい会ではないかと言う気持が、胸中に湧いて参りました。

私達会員の殆んどが、歴史とは縁のない仕事を持ちながら、また、既存の公の歴史の学会に属さず、胸中の歴史に対する関心を何らかの形で顕わした、と麗って当会に集ってきた者です。

その人達の、自分の足で歩き、確かめた内容をまとめたものを、なんとか冊子とし、活字であらわしたいとの願いが、この「山城志」となってあらわれました。

どうぞ、一読下さったうえで、御批判を下されば幸いです。その御批判こそが、当会への温かい激励だと思っているからです。

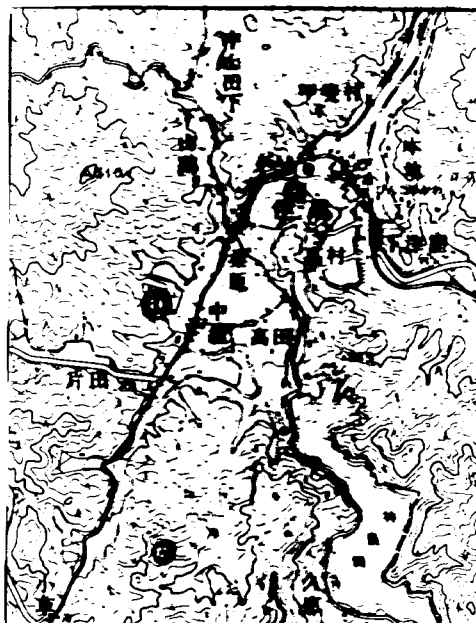
また、当誌に、花を添えていただきました先生方にも、後になりましたが、心中より御礼申し上げます。



＜図版解説＞

備後各地には中世の山城主に関連した墓石が多く残されています。

今回御紹介するのもその一つで、世羅郡甲山町伊尾597の禅宗鳳林寺境内に所在するものです。湯浅氏は寺の東方に位置する尾首山城主、下見氏は南方にそびえる鳶ヶ丸城主と伝わっています(『芸藩通志』)。

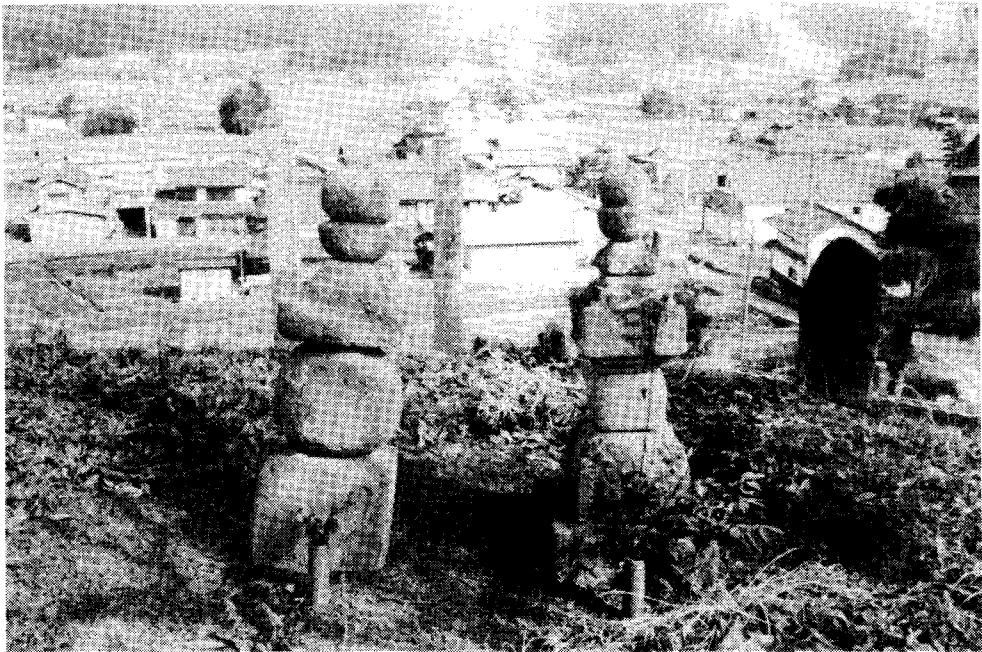


鳳林寺附近

- ①鳳林寺 ②尾首山城跡 ③鳶ヶ丸城跡



鳳林寺中世墓石群（伝湯浅氏墓）



同 上（伝下見氏墓）